

株主の皆様へ

第172期 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日

Moving on to our  
New Stage 115 Plan



**IBIDEN** イビデン株式会社

証券コード 4062



先を見据えた成長投資で  
強みに磨きをかけ、変化に対応し  
さらなる飛躍を目指します。

代表取締役社長

河島 浩二

**Q** 社長就任初年度の想いをあらためてお聞かせください。

**A** **新しいものを手掛ける。既存事業を伸ばす。会社の文化を変える。この三つに取り組んでいきます。**

私は1987年の入社で、当初は技術開発に携わっていましたが、1994年から米国へ移り、電子部品の技術営業を6年間務めました。そこで世界最大手の半導体メーカーとの製品立ち上げを担当し、新たにプラスチック製のパッケー

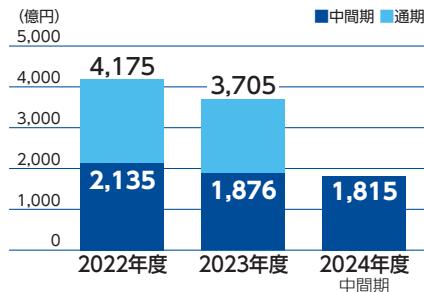
ジ基板を導入するという大きな変革の中で、多くの経験を積ませていただきました。その後もほぼ電子事業一筋でやってきましたが、37年間を振り返ってみると、常に自分にとって新しい道を選び、チャレンジしようという想いをもち続けてきました。

社長就任を打診されたのは2023年12月で、半導体パッケージ基板の新工場2カ所の建設を責任者として進めている最中であり、迷いはありましたが、やはり自分にとって新しいチャレンジであり、やってみようと思決しました。私の

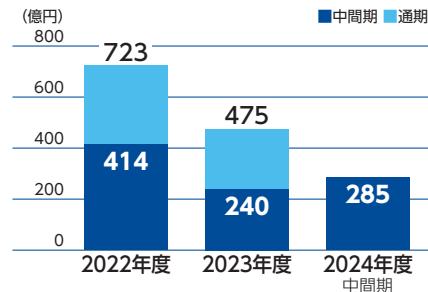
## 連結決算ハイライト

Financial Highlights

### 売上高



### 営業利益



中では今、二つの新工場をしっかりと立ち上げることが最も重要な課題と考えています。新しいビジネスでは、今期中に量産・出荷予定のEVバッテリー用安全部材を軌道に乗せ、海外市場も含めた展開を進めていきます。

もちろん新たな取組みだけでなく、既存の事業も伸ばしていかなくはなりません。市場や技術の変化を捉えて対応し、さらなる拡大を図ります。

もう一つ考えているのは、イビデンという会社の文化を変えることです。社員一人ひとりが自分の立場で意見を述べ、生き生きと活躍する。このような多様性のある考えの中から強い製品・強い事業が生まれてくると考えますので、そうした文化を時間をかけてでも醸成し、定着させたいと思っています。

**Q** 上期の営業状況と通期の見通しをご説明願います。

**A** 電子事業はAIサーバー向けが拡大。セラミック事業は伸びる新興国市場の受注拡大を進めています。

上期の売上高は、期初計画とほぼ同水準を確保し、営業利益は計画を上回りました。しかしその中身は、やや想定と異なる動きを見せています。電子事業は、汎用サーバー向けの需要回復に時間がかかっており、パソコン向けの需要は戻ってき

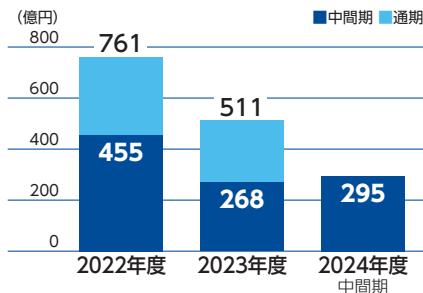
ているものの、価格競争が激しさを増しています。その一方でAIサーバー向けは旺盛な需要が続いており、大幅な伸びを示しました。セラミック事業は、中国・欧州の乗用車市場の停滞を受け、自動車排気系部品の需要が弱含みとなりましたが、新興国の商用車など成長市場の需要獲得で、前年同期比で利益を伸ばしました。

下期は、拡大するAIサーバー向け製品の需要を積極的に取り込むため、既存工場のキャパシティをできるだけAIサーバー向けに振り分け、強い市場をサポートしていきます。セラミック事業は、自動車業界のEVシフトに減速傾向が生じている中、内燃機関向け製品の需要を取りこぼさず、安定した成長でキャッシュを稼ぐ事業として維持しつつ、Si半導体及びSiCパワー半導体向け特殊炭素製品の需要をしっかり捉えていきます。

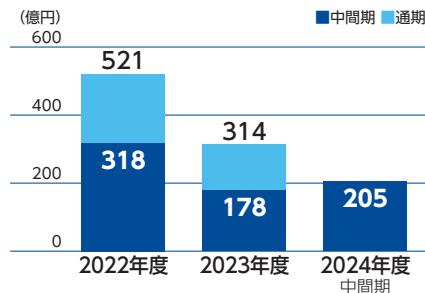
市場の見通しとして、電子事業は、汎用サーバーの落ち込みが続き、パソコン向けの価格引き下げ圧力も厳しさを増すと思われます。セラミック事業は、比較的堅調に推移しながらも、市場の動きは楽観視できない状況です。

以上を踏まえ、通期の業績予想につきましては、本年5月1日に開示した数値を下方修正し、売上高3,700億円(5/1開示対比200億円減)、営業利益400億円(同20億円減)、経常利益400億円(同20億円減)、親会社株主に帰属する当期純利益240億円(同20億円減)と予想しています。

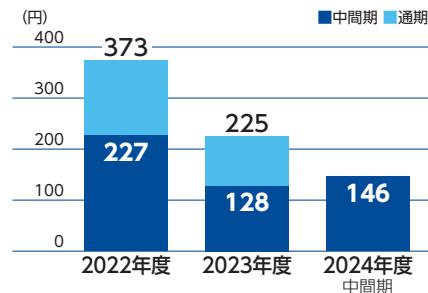
### 経常利益



### 親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益



### 1株当たり中間 (当期) 純利益



**Q** 中期経営計画に基づく取組みの進捗はいかがですか？

**A** **活動の5本柱で持続的成長の基盤を確立。変化への対応力を発揮し、成長につなげていきます。**

イビデンは、2023年度から2027年度までの5カ年中期経営計画を遂行中です。本計画は、「事業の競争力強化(稼ぐ力)」「新規製品の事業化(伸ばす力)」「モノづくりの改革(継続する力)」「企業文化の改革(変える力)」「ESG経営の推進(永続する力)」を活動の5本柱とし、持続的成長の基盤を確立していくものです。

稼ぐ力である既存事業の強みを活かしつつ、新工場・新製品を軌道に乗せ、同時に国内外の生産拠点を一元管理する「One Factory構想」の推進により、品質と生産性の向上を図ります。企業文化の改革については、冒頭にも述べましたが、社員の能力を最大限に引き出し、人と会社の成長につなげていく考えです。そしてESG経営を通じて、温室効果ガス削減などサステナビリティへの貢献を果たしていきます。

この5カ年計画のポイントとなるのは、二つの新工場による電子事業への寄与です。2025年7-9月期に稼働予定の大野事業場は、来期後半からの量産化に向けて、順調な立ち上

げを進めることが求められます。もう一つの河間事業場は、主要顧客の動向を踏まえ、稼働開始を当初予定の2024年から2年遅らせていますが、顧客としっかり対話し、状況に応じた柔軟な運用を進めます。セラミック事業は、内燃機関向け製品の需要が続く中、中国及びインドの新興国市場に入り込んでいく考えです。同時にSi半導体及びSiCパワー半導体向け特殊炭素製品のキャパシティを上げて伸びる市場に対応しつつ、内燃機関市場のデマンドシフトを見据えてEVバッテリー用安全部材をもう一つの柱に育てていきます。

私たちを取り巻く市場は、さまざまな形で変化し続けていきますが、そうした変化への対応力は、イビデンの強みと言えます。当面は、新工場への投資が大きい状況が続きますが、長期的視点で市場の変化を見据え、迅速かつ的確な対応で需要を獲得し、事業の成長につなげていきます。株主還元は、前述の成長投資を優先しつつ長期安定配当を基本に考えており、中間配当は20円とさせていただきます。中期経営計画の達成に向けた活動を実践することにより株主資本コストに見合うROE10%へ早期回復を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、イビデンの今後の飛躍にご期待いただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## プロフィール



河島 浩二

1963年生まれ、岐阜県岐阜市出身  
座右の銘は「迷ったら危険な道を選べ」。これは芸術家、岡本太郎の言葉です。人は、生きていく中でいろいろな選択肢に直面しますが、どうせやるなら新しいこと、自分がやったことのないことに挑戦してみようという考え方は、これまでの自分の人生の中で、常に指針となってきましたし、それが現在につながっていると思います。

趣味はゴルフなどで体を動かすことです。会社ではどうしても座っての会議が多いので、せめて休日はゴルフなどでしっかり歩こうと思っています。本格的に始めたのは、コロナ禍からです。練習しても調子が悪いことはよくありますが、逆に練習しなくてもスコアがいい時もあり、ことゴルフに関しては、時として「練習は嘘をつく」こともあるのではないかと考えています(笑)。

中長期の需要拡大に対応した、  
最新鋭の旗艦工場

# 大野事業場

AI向けICパッケージ基板などの新たなニーズへの対応に向け、大野事業場の立上げを急ピッチで進めています。最新設備による生産能力の拡大で需要を取り込み、収益の最大化を目指します。

## AIサーバー市場

新たな成長領域である生成AIをはじめとする、AIサーバー向けの需要は堅調に推移し、需要拡大が継続

## 汎用サーバー市場

既存のデータセンター向け汎用サーバー市場は、ハイパースケーラーの在庫調整による需要底打ちから緩やかに回復



One Factory  
構想に基づく  
グローバルでの  
品質力強化

匠(たくみ)人材の  
育成による  
現場力の強化

## 大野事業場のここがスゴイ!

### POINT 1

### 高いフレキシビリティを誇る 当社最大の工場!

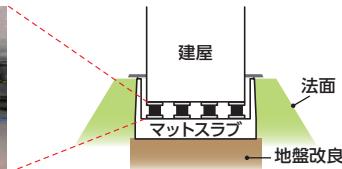
需要が急増するAI向けなどの新たなニーズを取り込むため、多品種・多仕様の生産を想定した高いフレキシビリティを誇る当社最大の工場です。顧客ごとの技術変化や要求に対応できるよう、余力スペースを確保した設計で、フロアの高さは約10mと一般的なビルの2倍以上です。立上げからモノづくりまで最高レベルで活動を進め、高品質の製品とサービスをお届けします。



### POINT 2

### 安定した供給を支える防災対策!

安定した供給には、自然災害への対応は不可欠です。大規模地震に備え、建屋の下部に免震対策を施しています。地盤改良を行った24,000㎡のコンクリート造の床の上に176個の免震ゴムを設置し、震動を軽減します。また水害に備え、約4.5mの高台に建てられています。法面は崩壊などの被害を抑えるため、GTフリューム工法\*で施工され、景観保全や環境負荷低減に寄与します。

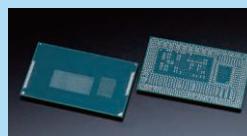


\*全面緑化により景観・環境に配慮した法面表層の保護方法

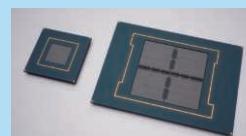
## 電子事業



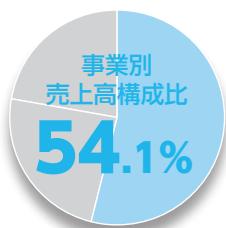
**主な製品用途** ■ ICパッケージ基板 (PKG)  
(パソコン・サーバー向け)



ICパッケージ基板 (PKG)  
(モバイルPC向け)



ICパッケージ基板 (PKG)  
(左：デスクトップPC向け  
右：データセンター向け)



### 売上高

**982億54百万円**  
(前年同期比4.2%減)

### 営業利益

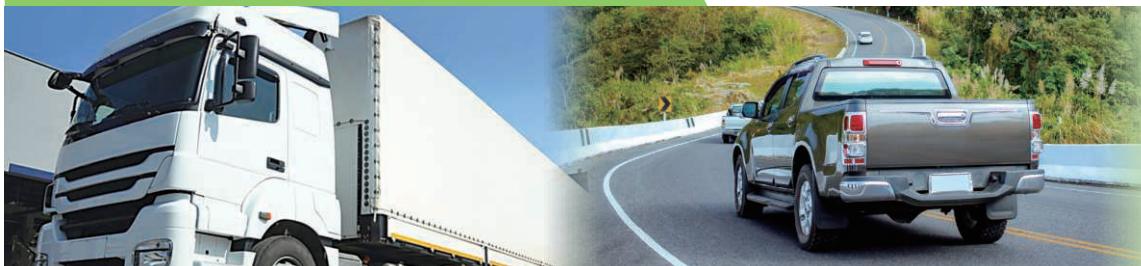
**179億90百万円**  
(前年同期比12.5%増)



**パッケージ(PKG)事業**におきましては、売上高は、パソコン及び汎用サーバー向けの高機能ICパッケージ基板の需要が減少したことにより、前年同期に比べ減少しました。営業利益は、生成AIサーバー向けの高付加価値製品の割合が堅調に推移したことにより、前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、電子事業の売上高は982億54百万円となり、前年同期に比べ4.2%減少しました。同事業の営業利益は179億90百万円となり、前年同期に比べ12.5%増加しました。

# セラミック事業



## 主な製品用途

- ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)
- 触媒担体保持・シール材 (AFP)
- 特殊炭素製品 (FGM)  
(半導体製造装置向け、新エネルギー関連向け)
- 高温断熱材
- ファインセラミックス製品



ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)



触媒担体保持・シール材 (AFP)



特殊炭素製品 (FGM)  
(半導体製造装置用部材)



## 売上高

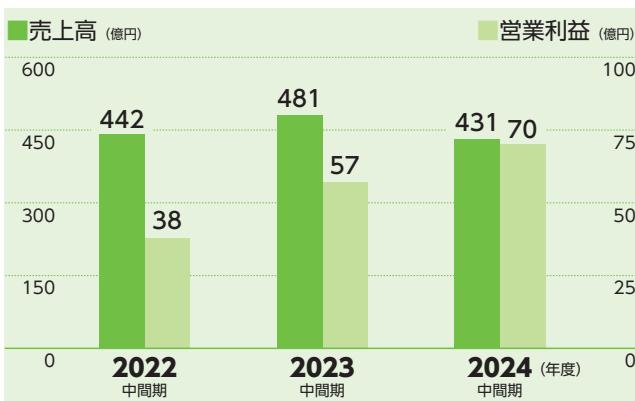
**431億35百万円**

(前年同期比10.3%減)

## 営業利益

**70億84百万円**

(前年同期比23.0%増)



自動車排気系部品である**ディーゼル・パティキュレート・フィルター(DPF)**は、中国経済の減速に伴う影響を受け、売上高は前年同期に比べ減少したものの、エネルギー費用を中心としたコスト上昇分を顧客との合意に基づいて販売価格に転嫁した効果が継続したことなどにより、営業利益は前年同期に比べ増加しました。

**触媒担体保持・シール材(AFP)**は、中国経済の減速及び国内自動車メーカーにおけるエンジン認証問題による販売数量減の影響が続いたことなどにより、売上高は前年同期に比べ減少となったものの、為替相場が円安に推移したことにより営業利益は前年同期に比べ増加しました。

**特殊炭素製品(FGM)**は、総じて受注が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期に比べ増加したものの、市況変化による一部顧客の在庫調整及び能増投資に伴う償却費増加などの理由により、営業利益は前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、セラミック事業の売上高は431億35百万円となり、前年同期に比べ10.3%減少しました。同事業の営業利益は70億84百万円となり、前年同期に比べ23.0%増加しました。

## その他事業



小水力発電



ぎふワールド・ローズガーデン



屋上緑化（早稲田アリーナ） 撮影：新建築社写真部

7 7月1日～7月31日



11 11月1日～11月31日



### 主な製品用途

- 各種設備の設計・施工
- メラミン化粧板・住宅設備機器
- 法面工事事業・造園工事事業
- 石油製品販売部門
- 情報サービス等の各種サービス業



プレミアム化粧板  
イビボードH（アッシュ）



植物性小型代替エビ



ヘルスケアソリューション  
（総合健診システム構築）



### 売上高

**401億95百万円**  
(前年同期比8.8%増)

### 営業利益

**34億88百万円**  
(前年同期比41.7%増)



**建材部門**におきましては、住宅着工件数の落ち込みによる販売棟数の減少影響を受けたものの、昨年度に実施した買収の効果もあり、売上高・営業利益ともに前年同期に比べ増加しました。

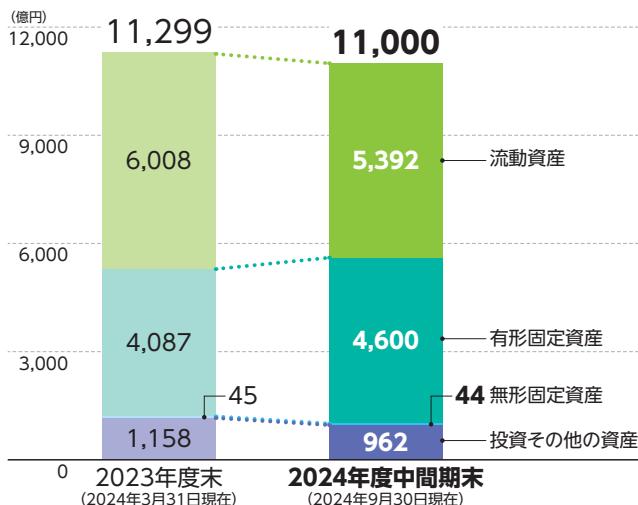
**建設部門**におきましては、発電設備・排水処理設備の建設工事の受注は堅調に推移したものの、大型工事の完工件数が減少した結果、売上高は前年同期に比べ減少しました。

**その他部門**におきましては、ヘルスケア事業において特定健診制度改正に伴う受注が好調に推移したことに加え、各種費用改善等の効果により、売上高・営業利益ともに前年同期に比べ増加しました。

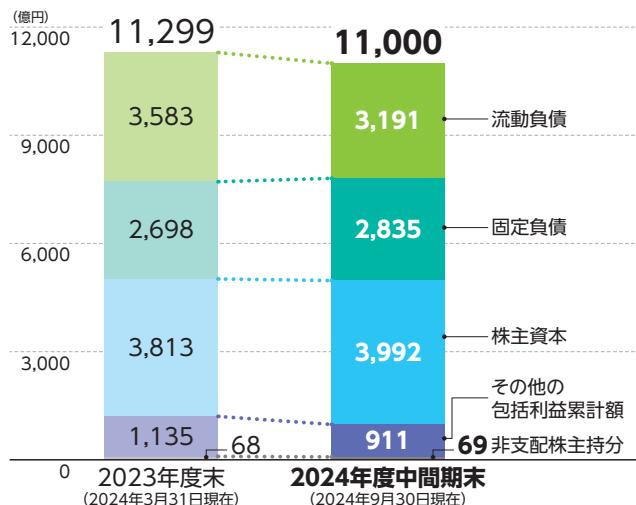
以上の結果、その他事業の売上高は401億95百万円となり、前年同期に比べ8.8%増加しました。同事業の営業利益は、34億88百万円となり、前年同期に比べ41.7%増加しました。

## 財務の状況

### 資産の部

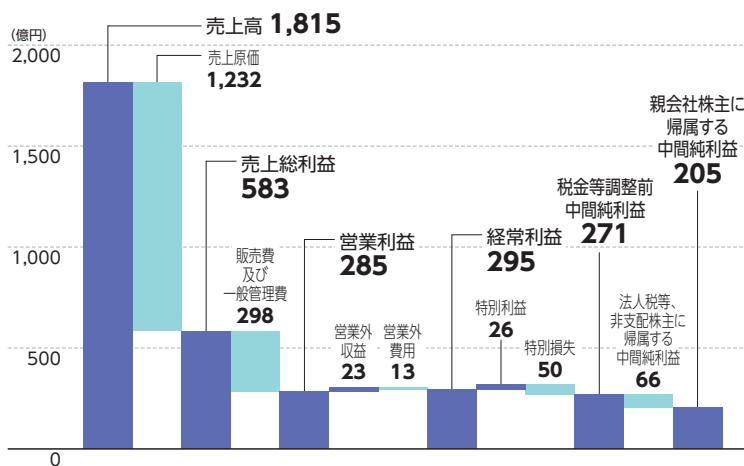


### 負債・純資産の部



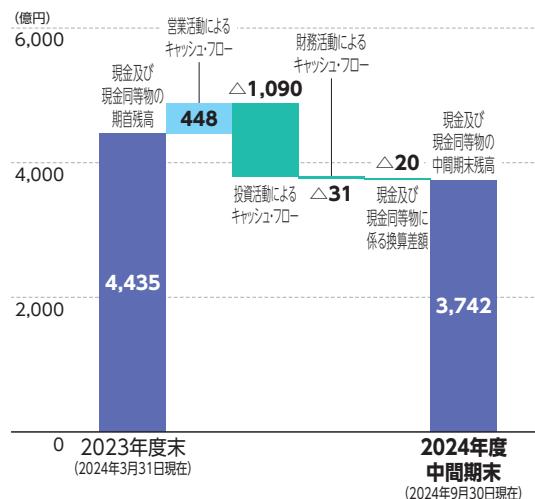
## 損益の状況

2024年4月1日～2024年9月30日



(注)記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フローの状況



## 会社概要

創 立：1912年(大正元年)11月25日

資 本 金：64,152百万円

従業員数：3,907名(連結11,577名)

## 主な営業所

本 店：〒503-8604 岐阜県大垣市神田町2-1

☎(0584)81-3111(代)

東京支店：〒100-6329 東京都千代田区丸の内2-4-1

(丸の内ビルディング29階)

☎(03)3213-7322(代)

## 事業場

大垣事業場、大垣中央事業場、青柳事業場、河間事業場、

大垣北事業場、神戸事業場(以上岐阜県)

衣浦事業場(愛知県)

## 会計監査人

有限責任 あずさ監査法人

## 役 員

### 取 締 役

代 表 取 締 役：青 木 武 志

代 表 取 締 役：河 島 浩 二

取 締 役：鈴 木 歩

取 締 役 加 藤 久 始

\*取 締 役：山 口 千 秋

\*取 締 役：浅 井 紀 子

\*取 締 役：小 池 利 和

※ 社外取締役

取 締 役 (常 勤 監 査 等 委 員)：桑 山 洋 一

取 締 役 (常 勤 監 査 等 委 員)：松 林 浩 司

\*取 締 役 (監 査 等 委 員)：加 藤 文 夫

\*取 締 役 (監 査 等 委 員)：堀 江 正 樹

\*取 締 役 (監 査 等 委 員)：藪 ゆ き 子

### 役付取締役

会 長：青 木 武 志

社 長：河 島 浩 二

### 経営役員

経 営 役 員：鈴 木 歩

経 営 役 員：加 藤 久 始

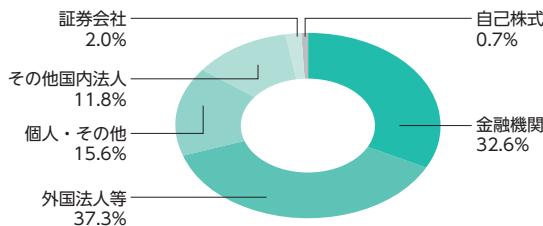
経 営 役 員：山 田 啓 二

経 営 役 員：矢 島 直 彦

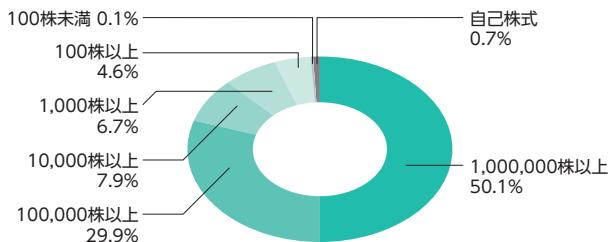
## 株式の状況

発行可能株式総数 . . . . . 230,000,000株  
 発行済株式総数 . . . . . 140,860,557株  
 株主数 . . . . . 39,363名

## 所有者別株式分布状況



## 株数別株式分布状況



## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,377
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	10,687
株式会社豊田自動織機	6,221
イビデン協力会社持株会	3,800
株式会社十六銀行	3,520
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3,271
株式会社大垣共立銀行	3,200
GIC PRIVATE LIMITED - C	2,577
大樹生命株式会社	2,539
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	2,440

(注) 千株未満切り捨て表示

## 株主メモ

<b>事業年度</b>	4月1日から翌年3月31日まで
<b>定時株主総会</b>	毎年6月
<b>基準日</b>	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
<b>公告の方法</b>	当社のホームページに掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL <a href="https://www.ibiden.co.jp/">https://www.ibiden.co.jp/</a>
<b>単元株式数</b>	100株
<b>株主名簿管理人</b>	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
<b>同事務取扱場所</b>	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031
<b>同取次窓口</b>	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
<b>上場取引所</b>	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミア市場

### ●未払配当金の支払いに関するお申出先

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設された株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

# 統合報告書2024を発行しました

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、当社グループの中長期的な成長戦略、価値創造の取り組みへの理解を深めていただくことを目的として、毎年統合報告書を発行しています。

当社グループの歴史・成り立ちから、現在の事業環境や戦略など、財務の視点だけでなく、環境、人財、ガバナンスなど非財務の視点も加えて一体的にお伝えしています。

下記QRコードあるいはURLへアクセスいただき、ぜひご覧ください。

WEBサイトはこちらから



<https://www.ibiden.co.jp/ir/library/annual/>



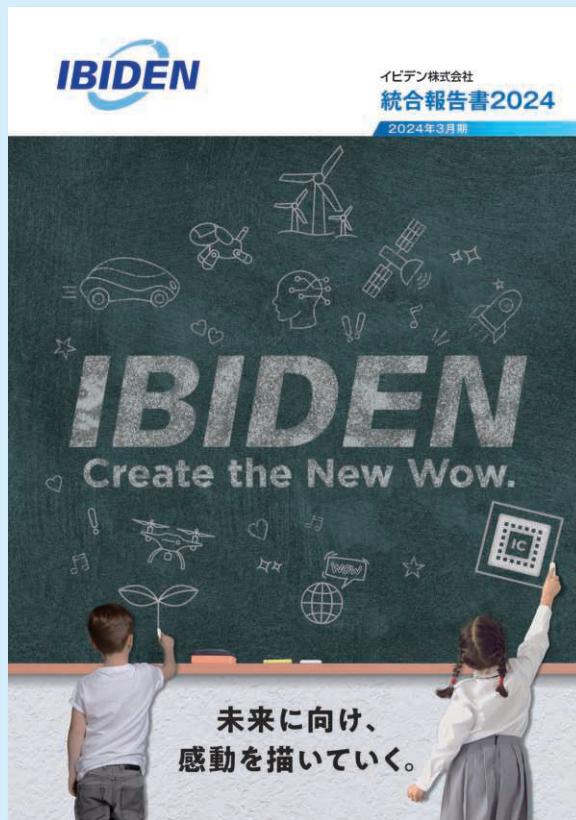
## 見どころ

### ①新体制でのトップメッセージ

新たに社長に就任した河島浩二より、新体制への想い、中期の進捗と課題、今後目指したい姿などを皆様にお伝えします。

### ②社外取締役による座談会

社外取締役6名が、多様な経験に基づく視点で、取締役会の状況や今後の課題について、座談会で意見を交わしています。



当社ホームページをぜひご覧ください。

<https://www.ibiden.co.jp/>



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で作られています。

※本資料には、2024年10月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。